

# 第37回日本乾癬学会学術大会 を終えて

金蔵 拓郎

鹿児島大学大学院医歯薬総合研究科皮膚科学教授

## はじめに

2022年9月9・10日の2日間にわたり、かごしま県民交流センターで第37回日本乾癬学会学術大会をハイブリッド開催いたしました(図1)。鹿児島の地で乾癬学会が開催されるのは、1990年に田代正昭先生が開催された第5回大会、2002年に神崎保先生が開催された第17回大会に続き3回目であります。前回の開催から20年が経過しました。この20年の間に乾癬を取り巻く環境は大きく様変わりしました。病態に関する研究の発展には目を見張るものがあり、「表皮細胞の増殖性疾患」という従来の概念の根底には免疫学的な異常が存在していること、また全身疾患とも密接に関連していることが明らかにされてきました。病態の解明に伴い治療法も

長足の進歩を遂げました。中でもサイトカインを標的とした生物学的製剤とJAK阻害薬は乾癬の治療予後を革命的に改善しました。またフォスフォジエステラーゼ4阻害薬のような異なる視点から開発された治療薬や、体外循環療法というまったく新しい発想による顆粒球・単球吸着除去療法も実用化されました。

## 学術大会

このような背景を踏まえて、今回の学術大会の学会テーマは「乾癬を通して医学を学ぶ：Learn Medicine through Psoriasis」とし、乾癬の研究と治療のこれまでの歴史を振り返り現状を俯瞰するプログラムを企画しました。特別講演ではカナダのK Papp Clinical Research and Probiotic Medical

ResearchのKim Papp先生に治療の歴史を、高知大学名誉教授の佐野栄紀先生に研究の歴史をレビューしていただきました。教育講演では浜松医科大学教授の本田哲也先生に「乾癬と性ホルモン」、大阪大学准教授の渡邊玲先生に「皮膚T細胞と乾癬」のタイトルで乾癬研究の最先端を紹介していただきました。シンポジウムは「1. 生体防御機構と乾癬」「2. 生活習慣病と乾癬」「3. 精神ストレスと乾



図1 会場入口

癬」[4. 乾癬と社会医学]の4つを企画し、乾癬研究の現状を多角的に論じていただきました。シンポジウム1~3では乾癬と全身の関連について理解を深めることができたのではないかと思います。治療に関しては19のスポンサーシンポジウムでup-to-dateな情報を講師の先生方にご講演いただきました。またAsian Psoriasis Forum, 乾癬教育プログラム J-PEARLS (Japan Psoriasis Education and Research Learning Syllabus) を開催し、会期中に「乾癬患者友の会・学習懇談会」、「掌蹠膿疱症患者会コミュニティによる学習懇談会」も実施しました。

## 会員懇親会に代えて

今回の学術大会はCOVID-19の第7波の影響を受けハイブリッド開催といたしましたが、600名を超える先生方にご来場いただきました。本来ならば会員懇親会でおもてなしすべきところですが、開催時の状況から断念せざるをえませんでした。その代替案として乾癬学会オリジナルの「かごしまグルメチケット」と銘打った食事クーポンを用意しました。感染症対策に関する鹿児島県第三者認証を取得した飲食店約60店舗にご参加いただき、店舗マップと紹介パンフレットを準備しました(図2)。参加された先生方にご自由に店舗を選んでいただき鹿児島の「食」をお楽しみいただく趣向です。集計された利用状況をみるとかなりの先生方にご利用いただけたようで、この企画がささやかでも新型コロナ禍で厳しい状況に直面しておられる飲食店の方々のお役に立てたならば幸いです。

## おわりに

新型コロナ第7波の下でのハイブリッド開催ではありましたが、Web参加を含めまして1,073名の先生方にご参加いただき無事に幕を閉じることができました。前述のように600名を超える先生方が現地参加されました。会場内でもロビーでも対面でのコミュニケーションの楽しさ、大切さ、そして意義を再認識した学会でもありました。日本皮膚科学会大会運営チームの皆様をはじめ学会の開催に関わったすべての皆様、ご賛助いただきました多くの企業、またご参加いただいた先生方に深く感謝を申し上げつつ筆を擱きます。



図2 日本乾癬学会 かごしまグルメチケット